

## 確かな学力を支える「学びに向かう力」の育成

～読解力の向上を基盤とした学習指導を通して～

## 平成29年度 大津町小中学校共通実践事項

- (1)話し手に体を向けて聞く (2)「めあて」と「まとめ」の明示  
(3)家庭学習の習慣化 (4)県学力調査に向けた課題克服プリントの計画的活用

9月27日(木)  
徳淵

先日のいじめ・不登校対策委員会の中でちょっと話題になったことについて、調べてみました。

今年、WHOが「ゲーム依存症」を国際的に疾患＝病気として認定しました。

ゲーム依存症は大まかに次の3つの条件に当てはまると、依存症となるそうです。

- ①ゲームをする時間や頻度を自分でコントロールできない。
- ②ゲーム以外への関心が低くなり、日常生活でゲームが最優先になる。
- ③日常生活に支障をきたしてもゲームを優先する。

ゲーム依存症はアルコール依存症やギャンブル依存症などと重なる部分が多いそうです。脳内物質であるドーパミンが分泌されるために、依存につながるようです。もし、ゲーム依存症になった場合は、専門的な治療が必要になります。

ゲーム依存症の認知が広がらない理由の一つとして、「病気だとは思わない」「ただだらしがないだけ」という認識が根強いようです。例えば、アルコール依存症についてですが、内閣府が2年前に行った調査では、アルコール依存症の人に対するイメージとして、43.7%の人が、「本人の意志が弱いだけであり、性格的な問題である」と答えたそうです。

で、この子ども向けの内容を調べると、次のような状態が見られると、依存状態に近いそうです。

## ①ゲームが優先で、やるべきことを放棄する

- ・習い事、家庭学習、決められたお手伝いなどやるべきことをしない
- ・家族で出かけようとしても、一人で留守番したがる
- ・友人との約束をしても、ゲームをするためにドタキャンする
- ・ご飯を食べない

## ②ゲームしか知らない・やりたがらない

- ・ゲーム以外の日常生活が無気力
- ・ゲーム以外の話題ができず、幼稚園・保育園や学校の友達と会話が続かない
- ・ゲームの邪魔をされると、過度に怒ったり取り乱したりする

依存症にならないための手立ては大人が持っておく必要があります。いじめ・不登校対策委員会でも話題になりましたが、今後学校としての啓発の取組も大切かと思います。

自分も調べてみて、我が子のために知っておくべきことだと痛感しました。